

集 会 ア ピ ー ル

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から4年を経過しましたが、事故の原因も現状も明らかにされず、流れ出す汚染水をくい止めることもできず、収束のめどもたっていません。しかし安倍政権は、全国16原発48基のうち、当面13原発20基の再稼働をすすめようとしています。この方針のもと原子力規制委員会は、2014年9月には、九州電力川内原発1・2号機について「新規制基準」に適合しているとして再稼働に「合格」を決定しました。さらに12月には電源開発が建設中の大間原発の稼働申請を行い、2015年2月には関西電力高浜原発3・4号機の再稼働を原子力規制委員会が「新基準に適合」と認めました。「巨大噴火の予知は困難」という専門家の意見や、地震や火山、住民の避難計画などへの対策不備など多くの意見を顧みない暴挙です。そもそも「新基準」そのものが、原発事故を過小評価し、安全上の弱点を無視し、計算の前提条件すら操作して安全ゾーンを広げるなど、安倍首相の言う「世界最高水準」とは程遠いと指摘されています。当事者の田中俊一原子力規制委員会委員長でさえ「合格したが安全とは言わない」と明言するほど無責任な内容です。

そして、安倍政権は「エネルギー基本計画」で、原発を重要なベースロード電源として位置づけ、今後も使い続ける方針です。使用済み核燃料や高レベル放射性廃棄物の処理の方策も確立していない中、新たな安全神話をふりまく危険な動きに「原発再稼働やめよ」の声が広がっています。

放射能大放出を伴う原発の過酷事故が、他の事故とは異次元の計り知れない被害をもたらすことが、フクシマによって世界中に明らかになりました。今も福島県では、12万人もの人々が、ふるさとに帰れず、避難生活を余儀なくされ、「原発関連死」は1、800人にのぼっています。一瞬にして土地も家も家族も奪われた福島の人々の現状は、言葉では言い尽くせません。政府は、一人一人の苦悩に寄り添い、人間らしい暮らし、生き方を取り戻せるようあらゆる対策をとるべきです。しかし、いま放射線量が高い特定避難勧告地域の指定解除、慰謝料、営業賠償の打ち切りなどフクシマを切り捨てる方針を打ち出しています。原発事故が「周辺住民の人格権」を侵害すると断じた福井地裁判決にも真摯に向き合うことなく、再稼働に突き進むこの政権に、国民の未来は託せません。

安倍政権による原発再稼働に反対し、原発ゼロを求める世論と運動は全国で広がり、粘り強く続けられています。2014年の夏は48年ぶりに「稼働原発ゼロ」を実現し日本社会が原発なしでもやっていけることが証明されました。人類と共存できない原発は、一刻も早く廃炉に向けての決断と作業を開始するべきです。

原発のない日本を実現するためにさらに声をあげ、行動を広げていきましょう。

2015年4月18日

「原発はいらない！再稼働は許さない！さよなら原発岩手集会」参加者一同